

第3節 小学校や高等学校におけるキャリア教育

第1節でも指摘した通り、キャリア教育を推進していく上で重要なことは、社会的・職業的自立が、児童生徒の発達課題の達成と深くかかわりながら、順次段階をおって発達していくことを踏まえて、児童生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立つて行うことである。

中学校においてキャリア教育を理解し、進めていくためには、小学校及び高等学校におけるキャリア教育の実践を視野におさめ、児童生徒の長期的なキャリア発達を支援する観点に立つて、計画的・組織的に実施することができるよう、各学校が連携を図りつつ、教育課程の編成の在り方を見直していく必要がある(詳しくは第2章第2節p.61～p.84参照)。

「現実的探索と暫定的選択の時期」を迎えた中学生をより深く理解し、中学生にとって望ましいキャリア教育を実践していくためには、「進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期」としての小学校段階において、どのような理念の下で、どのような実践がなされてきたのかを踏まえ、かつ、「現実的探索・試行と社会的移行準備の時期」としての高等学校段階での実践の方向性を把握しておくことが望ましい。

ここでは、小学校及び高等学校におけるキャリア教育の基本的な特質を把握するための資料として、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが発行したキャリア教育推進用資料(パンフレット)の中から、小学校向け資料『自分に気付き、未来を築くキャリア教育—小学校におけるキャリア教育推進のために—』(平成21年3月)、及び、高等学校向け資料『自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育—高等学校におけるキャリア教育推進のために—』(平成22年2月)の一部を引用して掲載することとする。なお、小学校の実践の詳細な方針については、文部科学省『小学校キャリア教育の手引き(改訂版)』(平成23年5月)を是非参照されたい。

